

## 普及活動情勢報告（平成30年11月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

### 春野就農支援チーム会で就農支援活動を勉強してきました！



熱く説明する市担当者

これまでの課題であった、中古ハウスの確保に向け、普及所で先進地事例調査を提案し、10月31日、チーム会で、安芸市の取り組みについて視察研修をしてきました。

普及所は、事前に安芸市担当者と連絡を取り合いながら、就農時のハウス確保に向けた安芸市独自の取り組みや、サポートハウス運営の背景を紹介してもらえるよう調整しました。

参加した農家代表からは「この事例を聞くと、安芸に就農希望者が集まる理由がよく分かる。」との意見があり、安芸市の産地維持に向けた、熱い思いと大変な苦勞に沢山学ぶ点がありました。

今後は、この結果を参考に、就農希望者が春野で就農したい！と思える体制づくりに、より一層取り組んでいきます。

### JA高知春野 トマト部会 アンケート調査 ～現状の課題をみつめる～



生産者圃場にて栽培状況も確認

9月から10月にかけてJA高知春野トマト部会に対して、昨年と今年の栽培経過や課題、環境制御技術に対する関心などアンケート調査を実施し確認しました。

生産者からは、去年は厳寒期の冷え込みや曇雨天によって、生育の乱れが多かったことから、安定した栽培が可能な環境制御技術の情報がもっとほしいといった声を頂きました。

JA高知春野管内では環境制御技術の導入面積も増加しつつあり、これからも関係機関と協力して産地の一層の生産力向上に取り組んでいきます。

### 法人設立後、初めての視察受け入れ～（農）梅ノ木ファーム～



地区公民館での内容説明

11月20日、（農）梅ノ木ファームは、法人になってから初めての視察を受けました。

ファームからは、これまでの経過や現在の取り組み、普及所からは、これまでの県段階での集落営農の進め方や、梅ノ木ファームへの支援の内容などを説明しました。視察された三重県（県、名張市、伊賀市、JA）からは、法人化の難しさや担い手の確保など地域の状況も説明され、質疑応答する中で相互交流が進みました。こうした視察を受けることにより、組織の課題（担い手確保等）がより明確になりました。

普及所では、引き続きこうした課題解決に向け、関係機関と連携して支援します。

## 新商品の売り込み先を検討 ～6次産業化支援チーム会～



干し新高梨の新パッケージ

11月15日、甲藤農園において6次産業化支援チーム会を開催しました。内容は、これまで検討してきた干し新高梨の新パッケージが完成したので、新商品を囲んで、どこに販売していくか、適正価格の決め方や、商品規格書の作成、県産品データベースへの登録などについてアドバイザーを交え検討しました。

普及所は、検討事項の項目出しと、今後の行動計画の整理を提案し、アドバイザーからは、新高梨や干し新高梨のアピールポイントをまとめると良いとのアドバイスがありました。

今後、普及所では、規格書の書き方など情報提供しながら販路拡大に向けて支援していきます。

## 出荷までしっかり管理！出荷場でもGAPを意識した「良い農業」を実践しよう



新しいルールについても巡回時にチェックします！

11月2日、JA高知春野集出荷場の作業員64名を対象に、GAP研修会を開催しました。

JA高知春野では平成29年から出荷場GAPに取り組んでいますが、作業員1人1人の意識向上のため、今回初めて作業員向けのGAP研修会を実施することとなりました。

普及所は、出荷場として「事故がない」ことが求められていることを再確認し、GAPの考え方や実施事例を紹介しました。研修中に作業員からの意見で「エプロンのポケットにはハンカチ以外入れない」という新しいルールも決まるなど、前向きに取り組む姿勢が見られました。

今後も普及所は、出荷場および生産者GAPの実践を呼びかけ、産地全体で「良い農業」に取り組めるよう支援をしていきます。